

# インドビジネスニュース

## ～世界にCEOを輩出するインド工科大学～

2025年3月

### 1. はじめに

今、国際的に注目を集めているインド工科大学（Indian Institutes of Technology ; IIT）。その背景には、近年の IIT 出身者たちの活躍があります。Google/Alphabet CEO のスダル・ピチャイ氏、サン・マイクロシステムズの共同創業者であるヴィノド・コスラ氏、IBM の会長兼 CEO のアルビンド・クリシュナ氏、元 Twitter（現：X）の元 CEO のパラグ・アグラワル氏、など、世界のトップ企業の CEO として IIT を卒業したインド人たちが頭角を現しています。

### 2. インド工科大学とは

#### ■インド教育機関における最高学府

インド工科大学（IIT）は、インドの工学と科学技術を専門とする国立大学の総称です。1947年のインド独立後、経済的、社会的発展を目指し、国内における科学者や技術者の育成を目的としインドの最高学府として1951年に設立されました。インド全土に23校あるIITは、それぞれが独立した教育機関でありながら、共通の理念と基準に基づいて運営されています。ボンベイ校、デリー校、マドラス校、カンプール校など、初期に設立したOld IITsと呼ばれる7校は、コンピューターサイエンス分野で世界的に高い評価を受けています。一方、2008年以降に設立されたIITはNew IITsと呼ばれ、グジャラート州のガンディナガール校、テランガナ州のハイデラバード校、ウッタラ・プラデシュ州のマンディ校など9校があります。また、2015年以降に設立されたIITsは、サードジェネレーション（第3世代校）と呼ばれ、ケララ州のパラカッド校、ゴア州のゴア校、カルナータカ州のダーウッド校など7校があります。

#### ■競争を勝ち抜いて入学した学生たちのキャンパスライフ

現在、全23校に在籍する学生は約10万人で、彼らは受験倍率50~100倍という競争を勝ち抜いてきたインドのトップ・オブ・トップの学生たちです。合格率1~2%という数値から、MITやハーバード大学よりも難関だという見方もあります。IITに合格するために毎日10~18時間の勉強を続けてきた学生たちは、IITに

入学してからも勉強の日々が続きます。インド各地から生徒が集まるインド工科大学の学生たちは、そのほとんどが広大なキャンパスの中で寮生活を送っています。キャンパス内には、寮、食堂、スーパーや銀行の ATM などがあり、学生たちは夜中、朝方まで熱く議論をしたり、共同プロジェクトに取り組んだり、勉強や研究に没頭する大学生活を送っています。

また、スポーツや学園祭やローカルフェスティバルなどの行事も行われていて、同じ敷地内で寝食を共にし、共に勉学に励み、時にスポーツや行事を楽しみ、大学生活を通して自然と友人との絆が深まっていきます。そしてそれが、世界中に広がる IITs 卒業生たちの強力なネットワークを作り上げているとも言えるでしょう。

### 3. 加速する日印連携

成長するインドへの関心の高まりとともに、IIT をはじめとしたインドの教育にも注目が集まり、最近では、日本の民間企業、政府関係者、教育関係者など、多くの視察団が IIT やその他の大学を訪問しています。また、幾つかの IIT では日本の大学との共同研究、学生交流の場が生まれています。

中でも、南インド・テランガナ州にある IIT ハイデラバード校は、日本からの円借款や技術協力支援を受けていることから、日本との交流が深いことで知られています。IIT ハイデラバード校では、計算機科学・工学科で教鞭を取る片岡広太郎教授が日印連携推進のために講演なども積極的に行っています。また、2022 年にはスズキ株式会社が IIT ハイデラバード校と共同で同校内に「スズキイノベーションセンター (SIC)」を設立し、農村地域におけるソーシャルイノベーション促進、地域課題解決の取り組みを行うほか、日印の学生やスタートアップ、社会人向けの研修プログラムの場を創出するオープンイノベーションイノベーション・プラットフォームを通じて積極的な活動を行っています。

#### 【IIT ハイデラバード校の写真】





#### 4. 日本における IIT 人材の採用

少子高齢化が進み、これから深刻な人材不足に直面していく日本企業は、これからますます外国人材の採用が必要不可欠になっていきます。特に、世界に遅れをとる日本の IT 業界においては、2030 年までに約 80 万人の人手不足に陥るとの予測も立てられています。

そこで、IT 大国として知られるインドにおけるトップ大学である IIT の学生に熱い視線が注がれており、実際に IIT の卒業生を採用している日本企業も増えてきています。しかし、IIT に注目するのは日本だけではありません。欧米を中心とした世界のトップ企業も IIT の学生の採用を積極的に行っており、言語のハードルが低く、給与レベルの高い欧米企業への就職を希望する学生が多いのが現状です。近年は、日本をはじめとしたアジア各国からのオファーも増えており、IIT 卒業生コミュニティが世界各国へと広がりはじめています。

一般的に IIT の卒業生の給与は、他の大学に比べると高水準になり、特にエンジニア系の生徒が重宝される傾向にあります。給与レベルは、業界、経験、職務など様々な要因によって大きく異なります。IIT ボンベイなどの名門 IIT を卒業した新卒者の初任給は、通常月 7 万インドルピーから 15 万インドルピーの間(日本円で約 12.3 万円～26.4 万円、※為替 1 ルピー=1.76 円前提)です。コンサルティング、データ・サイエンス、ソフトウェア・エンジニアリングなど、人気の高い職種の卒業生は、平均給与を上回ることが多いです。中には外資企業より年収 2,700 万円を提示されて話題になった学生もいました。インド国内企業からの提示金額はまだまだ低い傾向にあるため、インド国外での就職を希望する学生も一定数います。

IIT の学生が「日本での就職を希望する理由」としては、日本の高い技術力への評価とスキルアップへの期待、また治安の良さやインフラ整備が整っているため、快適な生活への期待も挙げられます。

## 5. 終わりに

今後、深刻な人手不足に直面していく日本において外国人材との協働が不可欠です。ダイバーシティー&インクルージョンが求められる経営において、ひとつの国の中に多民族、多言語、多宗教が混在し、国全体が多様性に富んだインドから日本が学ぶべきことは多々あるのではないかと思います。まだ日本での就労においては「言語の壁」が存在していますが、外国人材の強みや専門性を最大限に生かすための歩み寄り、受入れ体制作りが必要ではないでしょうか。

### 執筆

丹治 大佑（たんじ だいすけ）

Indobox株式会社 代表取締役

### ◆◇ 発行情報 ◇◆

#### ■発行元

松田綜合法律事務所（2024 年度インド愛知デスク運營業務受託者）

担当：弁護士 久保達弘

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目1番1号 大成大手町ビル10階

TEL: 03-3272-0101（代表） FAX: 03-3272-0102

事務所HP：[www.jmatsuda-law.com](http://www.jmatsuda-law.com)

過去のニュース記事はこちら：<https://jmatsuda-law.com/india-aichi-desk/>